

2005年6月30日

第19期人間と工学研究連絡委員会人間工学専門部会報告

人間工学専門委員会委員長  
青木 和夫

1. 第19期の活動計画

第18期に引き続き、次の4つを第19期の方針として計画を立て活動を行った。

- 関連学協会と日本学術会議の情報交換ネットワーク体制の整備
- ユーザビリティに関する検討
- ヒューマンエラーに関する検討
- 人間工学の教育

2. 活動内容

具体的な活動内容は以下の通りである。

関連学協会と日本学術会議の情報交換ネットワーク体制の整備について

関連学協会が主催するシンポジウムならびにイベントで、日本人間工学会に共催もしくは協賛の依頼があった場合には、人間工学会のホームページで紹介すると同時に、学術会議のHPにおいても紹介をすることで、両者の関連を強化することを計った。さらに、活動方針として設定した から に関連するテーマを取り上げるシンポジウムについては、積極的に学術会議の後援を取ることにし、学術会議から情報を広く発信するよう努めた。

また、学術会議から発信される文書は日本人間工学会及び人間工学研連のHPに掲載し、関連強化に努めた。

ユーザビリティに関する啓発

関連学協会が行うユーザビリティやユニバーサルデザイン、アクセシビリティについての研究動向を捉え、学協会間の橋渡しやユーザビリティ等に関する啓蒙・普及に寄与するための活動を行った。

ヒューマンエラーに関する検討

ヒューマンエラーに関するシンポジウムを人間工学専門委員会が主催で実施することを計画していたが、人間と工学研究連絡委員会の合同開催とすることとなり、積極的に以下のシンポジウムの企画と運営に参加した。

合同シンポジウム「事故、健康障害の再発防止の技術とリスクへの対応」

日 時：2005年3月17日（木）

会 場：日本学術会議大講堂

人間工学の教育

人間工学専門家資格を日本人間工学会が平成15年より発足させた。認定人間工学専門家は第平成15年度に125名が認定されたが、平成16年度は15名の認定と数が少なかった。このため、企業において人間工学の専門家資格にどのようなニーズがあるかを聞き取り、人間工学専門家資格の取得を促す方策を考える必要がある。また、国際的な視野から、国際的に通用する資格を得るように国際人間工学会連合の認証手続きの準備を進めたり、英語での申請や受験ができるよう整備を行ったことが報告された。

3. その他の活動

ドイツミュンヘン工科大学における人間工学カリキュラムやヒューマンエラーに関する取り組み、人間工学データベースシステム（EKIDES）について情報提供があった。このデータベースシステムの日本語版作成について、本委員会に協力の依頼があり、本委員会はそれを受諾の上、検討を行っている。